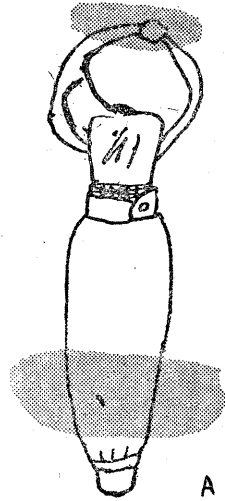


その蒐集を願いたい

## 子供の間に作られる歌について



久留島 武彦

のクウリクリッ！  
クリクリと呼びはじ  
めた時、双の腕をわが  
胸の前で、二三遍ぐる  
ぐると輪にまわして、  
最後のクリッという言  
葉の時に、石、紙はさ  
みの何れかを出してそ  
れで勝負がきまるとな  
るのです。

「時代の問題の人を遊  
ばせよ」  
いも及ばぬ創作の面白さ、私は心から驚かさ  
れて、これを耳にした時は、一寸言葉も出せ  
ないほどでありました。  
が、これは子供には何でもない事なのでし  
よう、彼等には誠に無雑作に、誰が考るとも  
なく、誰がつくるともなく、誠に自然に此の  
新ジャンケンボンのかけ言葉が出来上ったの  
は、仮令ば春の運動場の片隅のぼかぼかとし  
た日の恵みをうけつつ、いつ生出たともなく  
花すみれの一輪が咲出たように、出来上った  
ものでありましょう。

近頃子供の運動場での遊びに、ジャン・ケ  
ン・ボンの昔からのかけ言葉が、全く変って  
シュッシュッシュッまたはセツセツと云わ  
れて居ることは知って居ったが、私が驚いた  
のはそのかけ言葉や、動作の相違よりも、こ  
れに縁もゆかりもない文句が伴い、それと共  
に動作までが変って来て居るといふ事実であ  
ります。

一例をここにあげて見ると、  
「セツセツセ！ ある日チャプリンが靴買  
いに、あまりたかいので、お目々がクリクリ

戯の中に取り入れ、映画俳優のチャプリンをジ  
ャンケンボンの囃子ことばに活用し、チャプ  
リンから其の特色のあるドタ靴に言葉がとび  
その靴を買いに店に入ったら、値段があまり  
高かったので、びっくりして眼玉をクルクル  
と引くりかえしたと想像はとんで、其の眼玉  
の回転をわが遊びの運動に引つけ、両腕を回  
してクリクリのクリッときめ手を出すまで、  
何という大胆、何という自由、誠に無雑作には  
こびをつけて、大きくいえば天衣無縫の働き  
ともすれば理屈にとらわれる大人にて到底思

が、物の成るには、必ずそこに何か成るべ  
き誘因がなくては、突然にあらわれることは  
出来ないであると同様、此のチャプリン・ジ  
ャンケンにも、何か出来る誘因がなければ  
ならない。それを私は保育に従事される先生  
方に、御留意を願って、こんな唄や、また新  
しい遊びの種となるものを検出して戴きたい  
と思うのであります。  
私が斯く願うのは、ここに幼児の言語活動  
の大事な基礎となるリズム運動が働いて居る  
ように思われるからであります。

彼等には言葉よりも響きであります、其のもつリズムであります。言葉は約束されたものの符牒でありますから、そのままでは融通性はないのですが、その言葉を組立てる声の響きは、変通自在で、何等の拘束されるところはない。

そこに子供の働らく自由性というか、飛躍的応用性と云いますか、其のひびきから引かけて、変通自在、チャプリンの靴の購買からジャンケンボンの遊びにまで自由自在に活用されるのであります。

更にこういうのもあります。これは京阪方面の幼稚園から採集したものであることは、其の唄の中に含まれた環境、景物、言葉でもおわかりになるでしょう。

無論これは「お手々つないで——」の唱歌が原話である事は無論ですが如何に子供の環境と体験と、その飛躍的活用によって、自由大胆に、そして如何にも滑稽な結末にまで引落されて居るかに驚かされないものはありませんまい。

「お手々てんぶら喰べすぎて、あちゃこ先

生に見てもらい、(あちゃこは関西の漫才師である事は申すまでもなし)坊やもうあかん、発疹チブスの出来損い、腫れたお臍に蠅とまる。おうこチョコバイ、チョコバイ——」

ないのです。それが、ただ唄って居る間に、いつとなく誰よりとなく、作り出されて、子供等の間には知らざる間に、隅から隅まで行届いて唄って居るのだが、先生の前に出ると、口をつぐんで、其の一片をも漏らさない。

此のお手々つないでの唱歌は、永くひろく各地に拡がり、尤も普遍的な幼児唱歌であつただけに、此のつくりかえは京阪のみならず私が中国津山市で某女学校の生徒さんより、その幼時、好んで皆でうたった覚えがあるというので報告を受けたのは、文意にも、材料にも一層自由奔放、生活環境のさまざまな姿を表現して居る事を見のがすわけに行かないのです。

それが為に、そんな唄がうたわれて居るかも知らないで過されることが多いのだが、私は、実は此の変えられたる歌の研究ほど、彼等の情意のうごきと、言語活動の基本となる筋路を調査するのに大きな役割をもって居るものはないではなからうかと、そんな事を思うのであります。

「お手々てんぶら、つないでコシャン、野みちを行け、バリカン、みんな、がらくたホイ、コンニャク丸めてラッパ、ううたを唄えば、腹がへる。はれたみそらに腹がへる」

あまりに長くなりましたから、此の項は此のくらいで止めて、他日更に私は、声の響き言語の関係について、各位の指導を仰ぎたいのであります。各幼稚園、保育所の方々にお願い申したい事は、御園の子供達の間で、変えられて唄われている歌を耳にされたら、私まで御投寄下さる御好意を願上たいので

幼児の唄には、始から変え唄をつくらうなどという意志でつくられる物は断じてあり得

(宛先 京都市智恩院黒門内児童芸術研究所)